

「戦後日本を読みかえる」を推薦する

日本大学文理学部教授

紅野謙介

日本の敗戦から七三年が経った。明治国家の成立から数えてみれば、七三年目は一九四一年、ちょうど日中戦争から太平洋戦争に拡大した年に当たる。この長い期間を、私たちは「戦後」という名でひとくくりしてきた。しかし、「戦後」の時間のなかに性やジェンダーの葛藤と変化があり、階級や地域、民族を分断する闘争があり、国際政治が折り込まれてきた。その亀裂と断層を追うことは、私たちが真の「戦後」の岸辺にたどりつくための手立てでもある。この叢書はそうした旅に欠かせないガイドブックとなるはずである。

「戦後」の考察は、これまで、もっぱら同時代史としてなされてきた。戦後は、現在進行形のもと、未来へ向かう過程として扱われてきた。しかし、いまや戦後生まれが世代を重ね、戦後がノスタルジーの対象とすらなっている。

このとき、「戦後日本を読みかえる」の営みは、戦後の再文脈化であり、歴史化にほかならない。この試みこそが、へいまをあきらかにするために必要な営みだ。国籍や性別、専門を異にする四〇人が集う壮大な営みに、心が躍る。

「戦後」の歴史化への期待

成田龍一

日本女子大学  
人間社会学部教授

ミネルヴァの梟たちのために

京都精華大学  
人文学部専任講師

白井 聡

「戦後」は確実に終わろうとしている。いや、もうすでに終わったのかもしれない。「平和と繁栄」は、すでに彼方の物語となつてしまった。しかし、である。にもかかわらず、私たちは「現在」をとらえる言葉Ⅱ概念をいまだ手にしていない。このことが、出口の見えない閉塞感・不全感を蔓延させている。

そんな時代に求められるのは、過ぎ去りつつあるものが何であったかを、底の底まで見透かす言説だ。その認識の力が、私たちが一時代を能動的に終わらせ、新しい「現在」を創造するための活力となる。本シリーズは、私たちにミネルヴァの梟として飛び立つ資格を与えてくれるだろう。

# 戦後日本を読みかえる

1 2 3 4 5 6

全6巻

四六判上製・平均270頁  
各巻予価3,200円+税  
セット ISBN978-4-653-04390-4

2018年6月 刊行開始!



\*お近くの書店または小社までご注文ください。

臨川書店

本社 / 〒606-8204 京都市左京区田中下柳町8番地 ☎(075)721-7111 FAX(075)781-6168  
東京 / 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-11-16 さいかち坂ビル ☎(03)3293-5021 FAX(03)3293-5023  
E-mail(本社) kyoto@rinsen.com (東京) tokyo@rinsen.com http://www.rinsen.com

# 戦後日本を読みかえる

1 2 3 4 5 6  
全6巻

坪井秀人 編

TSUBOI Hideto

臨川書店

# 編者のことば

「戦後」は日本の内から外から、しかもそれぞれまったく違う力学のもとでその終末を迎えようとしているのかもしれない。しかし、このような現在だからこそ、「戦後」とはどのような時代だったのかを徹底的に検証し、考え直す時なのではないだろうか。「戦後」という時間に殉じるがごとく、「皮肉なことに」衰弱の途を取らされ続けている人文学の知をここに集めて、臆することなく真つ向から「戦後」を読みかえることに挑んでみたい。

本叢書『戦後日本を読みかえる』が目指すのは、保守主義を中心に唱えられてきた「戦後」に対する挑戦に對峙し、「挑戦」する権利を私たちの側に奪い返すことである。安易に「戦後」が総決算され、そこから脱却されることに抗し、本来の意味で「戦後」を終わらせるための作業に就くこと。本叢書の評価はその作業に對する評価によって決しられるはずである。

国際日本文化研究センター教授 坪井秀人

## 1 敗戦と占領

戦後の闇市——酒場と小説からの視点……………マイク・モラスキー  
 占領期からポスト占領期映画における「パンパン」表象が問いかけるもの……………斉藤綾子  
 ——夜の女から基地の女へ……………天野知幸  
 「肉体」と「皮膚」——GHQ/SCAP検閲下の文学が描く「接触」と生政治……………李承俊  
 〈疎開〉を読みかえる——戦後における疎開体験の語りの再検討……………長志珠絵  
 脱「兵曹文化」への模索——軍港都市・佐世保にみる占領と駐留のはさま……………森岡卓司  
 一九四〇年代東北表象言説と「百姓のノート」……………塩野加織  
 雑誌「ジャパン・クォーター」にみる日本文学の「輸出」……………

## 2 運動の時代

山村を描るがした「ダンス至上主義」……………島村輝  
 ——「静かなる山々」と戦後日本共産党の文化運動……………鈴木勝雄  
 「ルポルタージュ絵画」の変容と六全協のインパクト……………川口隆行  
 二つの「戦後」文化運動——詩人入四國五郎の軌跡……………鷺谷花  
 松川事件をめぐる画像・映像メディアと「メモロドラマ的想像力」……………橋本あゆみ  
 大西巨人の文学／運動の支柱としての「法感情」……………張政傑  
 ——一九七〇年代前半における障害者の教育をめぐる運動と「神聖喜劇」……………

## 3 高度経済成長の時代

カストリ雑誌の末裔——「小説春秋」を読む……………石川巧  
 《労働》の発見——映画集団「青の会」とスポンサー映画の超克……………岡田秀則  
 ——大江健三郎「われらの時代」にみる戦争の痕跡……………中谷いずみ  
 開発と「公共性」——中上健次「熊野集」「海神」……………渡邊英理  
 吉行淳之介と中間小説——転換点としての「ずれずれ」……………長瀬海  
 「沖繩問題」というブラック・ホール……………新城郁夫  
 南方同胞援護会と大浜信泉を軸として……………鈴木貞宇  
 詩を書く銀行員たち——銀行員の詩集試論……………

## 4 ジェンダーと生政治

戦後日本の人口問題と生殖管理——人工妊娠中絶を中心に……………松原洋子  
 洞窟からクリプトへ——山城知佳子「肉屋の女」を読む……………菅野優香  
 「肉体」から戦後を再考する——田村泰次郎の「肉体文学」を中心に……………光石亜由美  
 優生学的想像力——津島佑子「狩りの時代」を読む……………美馬達哉  
 生殖管理の戦後——優生保護法と主体をめぐること……………柘植あつみ  
 リブと依存の思想——中絶・子殺し育てること……………飯田祐子  
 坂口安吾の戦後作品の肉体に見る〈主体のゆらぎ〉……………狩俣真奈  
 ——「白痴」「魔の退屈」「戦争と一人の女」を中心に……………安井真奈美  
 「主婦之友」別冊附録にみる女性の身体……………

## 5 東アジアの中の戦後日本

「戦争画」概念再考——「空襲」は戦後の図像か……………北原恵  
 堀田善衛「時間」が問いかけたこと……………秦剛  
 ——戦後日本の戦争責任論の座標から……………  
 「日中友好」の時代と戦争記憶……………尹芷汐  
 ——鄧友梅「さよなら瀬戸内海」と森村誠一「二三部隊」シリーズ……………  
 在日朝鮮人から見た「転向」の言説空間……………廣瀬陽一  
 ——金達壽文学における「親日」表象を通して……………  
 聞こえてきた解放……………申知英  
 ——一九四五年前後の朝鮮人作家の小説に描かれた帰郷・移住と異族の葛藤……………  
 身体を生きていることの痛みに向けて……………村上陽子  
 ——目取真俊「面影と連れて」論……………  
 ジェンダー・セクシュアリティ・記憶……………李文茹  
 ——東日本大震災前後の観光消費文化における「台湾」と女性雑誌……………

## 6 バブルと失われた20年

序説・戦後日本の国民主義と人種主義……………酒井直樹  
 曲がり角の人文知と日本の大学のグローバル化……………鍾以江  
 戦後民主主義の基底音を聞く……………沈熙燦  
 ——矢部貞治の民主主義論を手がかりに……………坪井秀人  
 ホストバブルの「アブジェクト」……………  
 ——「キッチン」から「OUT」へ……………  
 笨野頼子「なにもしてない」論……………浅野麗  
 ——中途半端の力学……………  
 失われた「戦後」をたどり直す……………朱恵足  
 ——オキナワとフクシマからの問い……………  
 フレカリ化する日本……………シユテフィ・リヒター

# 戦後日本を 読みかえる

全6巻



臨川書店

ISBN78-4-653-04391-1  
ISBN78-4-653-04392-8  
ISBN78-4-653-04393-5  
ISBN78-4-653-04394-2  
ISBN78-4-653-04395-9  
ISBN78-4-653-04396-6